

宿縁

四月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

「愛される人生」から

「愛する人生」へ



全世界にまで拡大している新型コロナウイルスは、今や生活に様々な不便が出てきており、終息の見えない不安と感染の恐怖がこれまででの日常を壊してきています。この非常時は初めての経験であり、なんとも感じていなかった平常の日々が、どれほど有り難いことだったのかを知らされます。こうした時期ですが、ある人から薦められた本を読んでいます。フロイト、ユングと並び心理学の三大巨頭と称される「アルフレッド・アドラーの思想」です。アドラーの思想

を分かり易く問答形式にした岸見一郎(哲学者)、古賀史健(ライター)共著の「嫌われる勇氣」、「幸せになる勇氣」の二部作です。アドラーの死後半世紀以上たっていますが彼の教えは自己啓発の源流として多くの人々に絶大な支持を誇っています。

私自身はアドラーという人物もその提唱する心理学も知りませんでした。ただ彼の名言といわれる教えに仏教の真理に根ざした生き方の一端を感じるので、皆さんと一緒に考えてみていただけたらと思います。

◇アドラー曰く

＊『対人関係のゴールは「共同体感覚」』

このたびの新型コロナウイルス感染の拡大で何が影響を受けているかという点、人と接触することを禁じたり、人込みや集会の場を極力避けるようになるべく家にいて外出しないしてほしいといわれています。

人から人へうつるといふ新型コロナウイルスですから感染を防ぐには至極当然ですが、コミュニケーションが断たれることは大きな痛手です。コミュニケーションを図る手段は今の時代、他に方法はあるとはいえ自由に世界の何処にでも行くことができ、体で触れ合い、直に言語を交わすことよってコミュニケーション「共同体」が構成されてきた人類進化の歴史(密林から草原へ)に重さを感じざるを得ません。現在に至る人類の社会というものは、それまでの地球の歴史

により出来上がっています。類人猿の中でもヒトは東アフリカで起きた地殻変動で乾燥した気候になり、密林からサバンナとなった地域で直立し二足歩行と言語により進化して「共同体」の社会を構成したそうです。

しかし本来の「共同体感覚」が薄れてきた現代は、「二人でも生きられる」という錯覚から他者を遠ざけ対人関係を疎ましくさえ思うようになりました。

アドラーは「すべての悩みは対人関係である」といっています。

『そして「自分の人生における主人公は「わたし」であるが、しかし「わたし」は世界の中心に君臨しているのではなく、あくまでも共同体の一員であり、全体の一部分です。地球儀で世界をとらえたときに、フランスを中心にもみることもでき、中国だってブラジルだって中心にみることもできる。すべての場所が中心でありながら、すべての場所が中心ではない。見る人や場所や角度によって、無限の中心が点在する。だから「あなたは共同体の一部であって、中心ではない。」』

そして、対人関係の悩みを解決するための処方箋として、他者を仲間だと見なし、そこに「自分の居場所がある」と感じられることを共同体感覚だという。他者のことを「敵」とみなすか、あるいは「仲間」とみなすかが分岐点です。もし他者が仲間だとしたら、仲間と囲まれて生きていたとしたら、我々はその「居場所」を見出すことができ、さらには、仲間たち一つまり共同体のために貢献しようと思えるようになるでしょう』と述べています。

こうした彼の思想には釈尊が説いた永遠の真理と親鸞聖人の教えが基調となっていないのではと思えてなりません。

それは、すべてのものは「縁起的存在」であるということ。われわれは生まれてからずっと、「わたし」の目で世界を眺め、「わたし」の耳で音を聞き、「わたし」の幸せを求めて人生を歩みます。しかし、色眼鏡を外して見よと絶えず願われている如来の眼差しに出遇った瞬間、「わたし」だった人生の主語は、「わたしたち」が主語となります。

『「共同体」とは家庭や学校、職場、地域社会だけでなく、たとえば国家や人類などを包括したすべてであり、時間軸においては過去から未来までも含まれるし、さらに動植物や微生物までも含まれる』

とのアドラーの言葉は、「十方衆生」と呼びかける如来さまの呼び声、本願と受け取れます。仏教は「いのちの不思議」を説くゆえに、その尊厳はあらゆるものに及び、他者を敵と見なす自我を否定し、他をいつくしむところに過去にとらわれず、そして自らを奢らずまた卑下せず、「誰もが今ここで幸せになる勇氣」が与えられているということです。

つまり「他人はわたしに何を与えてくれるのか？」ではなく、「わたしはこの人に何を与えられるのか？」を考えることが共同体への責任だということです。

二心なく如来を信ずることを要とする親鸞聖人の教えは、信用(条件付き)ではなく、信頼(懐疑の余地がない)なのであり、私にとつては「人に愛されたい」と思う窮屈さから解放されて、「愛する人」へと転換する念仏の大道を歩むことなのです。

【寺灯雑記】

○春の彼岸会法要は無参詣者の中で3/20

2月下旬から新型コロナウイルスの感染拡大への対応が強まり、国からの集会自粛の要請を受けてお寺での諸行事も中止せざるを得なくなりました。

3月20日の春季彼岸会法要と宿縁廟法要も残念ながら参詣中止の中で住職、前住職で勤めさせていただきました。

大相撲も野球のオープン戦も無観客の中で行われましたが、東京オリンピック、パラリンピックもとうとう延期となりました。

終業式も卒業式も規模を縮小されましたが年度替わりの大切な時期に会社も学校も商売にも大きな影響が出て、まだ見通しの立たない状況下です。

そんな中で志村けんさんのコロナ感染による死亡(三月二十九日)が伝えられ、あらためて感染の恐ろしさを知らされます。

どうぞ皆様にはこの非常事態に際し、適切に対処されますよう心より念じています。

4月のお寺の行事も5日の花まつり(釈尊降誕会)、11日の婦人会・壮年会合同法座、19日の常例法座を中止といたしました。

何卒ご理解をいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

○境内の枝垂桜は満開です

春の気温の上下が激しいこの頃ですが、本堂前の枝垂れ桜は見事に満開となつています。木々の若芽も出始めて、自然界は変わらぬ営みのやさしさを見せてくれています。

【幸せてってなんだろう】

― 祭祀を批判した釈尊 ―

釈尊は、およそ二五〇〇年まえに、インドで仏教を説かれました。なぜ釈尊は独自の法を説かれたかという点、当時のインドで勢力を誇りインドの宗教的な価値観を形成していた「バラモン教」の教えに満足できなかったからです。そのため、仏典には、数多くのバラモン教批判が出てきます。

バラモン教は祭祀を行うことによって幸福を実現しようとした。つまり幸福とは神から与えられるものと考えたのです。

たとえば初期仏教の典籍には「車兵(しゃへい)の長たる王は、バラモンの勧められ足るままに、何十万頭もの牛を、祭祀の場で殺した」と祭祀で多くの命が犠牲にされていることを批判します。

これに対して仏教は、よい行いによって幸福が生まれると考えます。初期仏教の典籍には、以下のような記述が、しばしば見られます。

ただ、バラモンの母胎から生まれたただけであり、自分の所有物に執着するよ
うなものを、わたしは真のバラモンと呼ばない。(スッタニパータ)

実践している行為によつてこそ、バラモン階級の人になる。(同)

このように祭祀によらない点に加えて、神が定める決まり(戒)が重要ではなく、仏法に基づいて個々の具体的な善悪について考える点においても倫理的な善悪を持っていると言えます。仏教の戒は、神(絶対者)が決めるものではないのです。

(季刊せいてん春号より)

【仏教語講座「学生」】

新年度が始まり、新たに入学した「学生」さんたちが、次々に大学の門をくぐっていきます。

仏教では、「がくしやう」と読み、「学匠」とも書きます。

もとは寺院に寄寓(ききゆう)《仮住まい》し、仏教以外も学問を学ぶ者に名づけられたようですが、日本仏教界では、仏教を学ぶ者に用いています。

真言宗の金剛業(こんごうごう)学生、胎藏業(たいざうごう)学生や、海を渡って大陸に学ぶ人を留学生、学んで帰国した人を還学生(げんがくしやう)という具合です。

学者も学徒も、もともと同じ意味でした。比叡山(天台宗)を開いた伝教大師は、山内で学問する学生たちの学則ともいえる『山家学生式(さんげがくしやうしき)』を著しています。

比叡山の衆徒(しゅと)は、学生である大衆と、一山の雑務を担当する堂衆とに分かれていました。

親鸞聖人の妻・恵信尼さまのお手紙には「殿(親鸞聖人のこと)の比叡の山に堂僧つとめておはしましけるが、山を出でて、六角堂に百日籠らせたまひて」と記されています。

若き日の聖人は、比叡山の「堂僧」として、常行堂に奉仕しながら、常行三昧を修める不断念仏僧だったようです。

さて、新入生の皆さん、学生とは学問に従事する人のことですから、しっかり勉強してくださいね。

(機関誌「大乘」四月号より)

【四月の法座・行事について】

新型コロナウイルス感染が世界中に広がってかつてないほどの危機感を募らせています。感染防止のためお寺の諸行事もやむなく中止に追い込まれています。四月の法座、行事については次のような日程になりますのでご理解とご協力のほどをお願いいたします。

○教行信証を学ぶ 四月二十五日 二時

(行巻) 講師：前住職

尚、四月五日(日)花まつりは中止。

四月十一日(土)婦人会・壮年会合同法座は中止。

四月十九日(日)入門式は延期。
四月十九日(日)常例法座は中止。

【映画上映と親睦旅行の延期】

○映画「明日へ」戦争は罪悪である

来る四月十八日に市川市市民会館で上映をされる予定でしたが、市川市では公共施設を五月六日まで休館することとなりました。その為上映会は十月十八日(日)に延期となりました。時間は従前どおり十四時、十八時の二回です。

○ご旧跡参拝旅行

五月二十四日～二十五日の一泊二日で予定していましたが福島方面のご旧跡参拝親睦旅行は延期します。実施時期は未定。

【四月の掲示板のことば】

愛される人生ではなく
愛する人生を 選べ